

5年1組・2組(すいすいコース) 算数科(単分量あたりの大きさ)

平成28年11月30日(水)5校時

混みぐあいの求め方を説明して、どの求め方が分かりやすいか話し合いました。

① 体感的な混みぐあいを理解する

混みぐあいに関するいろんな写真を見ながら、混んでいるとは何か考えました。人数と場所の2つの大きさが関わっていると分かりました。全体

② 課題に取り組む

修学旅行の部屋の大きさという例でイメージしやすくなりました。たたみの枚数と人数のどちらかをそろえて、3種類の部屋を混んでいる順番に並べました。

個人 【ノート】

③ 自分の考え方を全体で説明する

ノートをテレビに映し、どのように求めたかを全体で説明しました。最初に「たたみ1まいあたりの人数を求めた」などの計算の見通しを伝え、計算の結果から分かったことを順序立てて発表しました。

全体 【発表】

④ どの方法が良いか話し合う

混みぐあいの比べ方の方法として3種類出たが、その中でどのやり方が分かりやすいかをグループで話し合いました。計算は簡単にできても意味の分かりにくいものなどもあり、話し合うことで理解することができました。

グループ 【発言】

混みぐあいの求め方を説明したり、グループで話し合ったりしたこと、混みぐあいという数量を理解することができました。また、単分量あたりの考え方に触れ、この後の学習の見通しをもつことができました。

(実践者 教諭 西谷 仁)

① 体感的な混みぐあいを理解する



一人あたりのたたみの枚数は、少ない方がこんでいるから…。

同じ広さの場所だと混んでいるかどうかを比べられるな。

③ 考え方を説明する



たたみ一枚あたりの人数で求めました。

② 課題に取り組む



④ どの方法が良いか話し合う



最小公倍数でそろえるやり方は、問題によって計算が大変になってしまう。

〈感想〉

- 混みぐあいを説明することは難しかったけれど、いろいろな式で計算することができると分かりました。
- 自分では考えつかなかったやり方を友だちがしていて、なるほどと思いました。

